

宮城いきいき便り

震災年卒業ゆえに絆強く

いきいき学園石巻校「いちご会」会長の木村さん

山に植樹、施設慰問で喜ばれる

東日本大震災が起き 一つのボランティア部 して、毎年5月に石 巻市の水沼山でのツツ 活動し、中でも植樹会 ジの植樹、11月には上 の卒業を控えていた。 の参加と、高齢者施設 品山(同市)でのツツ 卒業式は残念ながら中 シの植樹と下草刈りを 止となったが、15 期生がさまざまな ボランティアアと 活動を開始した。 ゴルフ、卒業同期交流 山には車の乗り入れが 会の開催が主な事業だ。 可能で、足腰に自信の 植樹ボランティアと ない仲間も参加できる。

地域貢献で顕彰受賞

ウォーキング、パーク 行ってきた。植樹する 会での開催が主な事業だ。 山には車の乗り入れが 可能で、足腰に自信の 植樹ボランティアと ない仲間も参加できる。

宮城いきいき学園石巻校の15期生は「1」と 「5」を「二期一会」になぞらえて「いちご会」と称し、さまざまな活動を行っている。地域貢献・社会貢献活動が認められ、2015年度には日本生命財団の生き生きシニア活動顕彰を受賞した。会長の木村寅吉さん(73)に日頃の活動の様子などを伺った。



植樹活動で笑顔を見せるメンバー (後列左から2人目が木村さん)

施設慰問は東松島市の特別養護老人ホーム「矢本華の園」を訪問し、利用者の前で踊りを披露したり、三味線を弾いて一緒に民謡を歌ったりし、リクエスタを受け取るなどいつも好評だ。



山の斜面を彩るツツジ



高齢者施設ではつらつと踊りを披露

木村さんは石巻市沼津地区で農業を営む傍ら、13年ほど前から民生委員・児童委員を務め、現在は会長職にあたる。 南境地区の仮設住宅団地を訪ねてボランティア活動を実施。時には収穫した野菜などを振る舞い、ソーマン流しを企画するなど喜ばれている。 多忙な毎日を送る木村さんのモットーは「心身とも健康第一、みんなと仲良し」、そして「自分も楽しんでボランティア」。今、一番の悩みは「光陰矢の如し。時間が欲しい」と笑う。 目が生き生きと輝き、最後まで力強く語って生らとともに、震災の被災者が暮らす石巻市だ。